

「広めたい」障がいに対する正しい理解

た こう り さ ち ば か ず き
竹生 梨紗 さん・千葉 一輝 さん

(北海道介護福祉学校2年)

町民との交流をきっかけに福祉への関心を広げる取り組みを行う「地域活動研究・地域問題解決グループ」として活動する二人。「障がいに対する偏見・差別を減らすことを目標に活動しています」と話す竹生さん。

角田小学校で行われたPTA行事に参加し、障がいの有無に関わらず競い合えるスポーツ「ボッチャ」を通して親子と交流したほか、オープンキャンパスの一環として栗山町身体障害者福祉協会と連携したハロウィンイベントを行いました。活動を通して千葉さんは「障がいを持つ方や保護者の声を聞くことができて、達成感や新たな学びを得るいい機会でした」と振り返りました。

2月に開催予定の報告会では「介護のやりがいや魅力、障がいに対する正しい理解を広めたい」と二人は意気込んでいました。



竹生さん（左）と千葉さん（右）



10月に開催されたハロウィンイベント

今できること、これからも見据えて

か せ と も や
加瀬 智也 さん（栗山高校2年）

昨年度まで休部状態だったテニス部。現主将の加藤さんが中心となり部員を集め、今年から4人で活動を再開しています。

「体を動かすことが好きで、小学生の時は軟式テニスをしていたこともありとても楽しく活動しています」と話します。

昨年8月に行われた空知管内の大会では、初出場にしてダブルスでベスト8という成績を残しています。活動

中は、仲間同士の声かけを大切にしており、分からないことを常に共有しているとのこと。部活以外にもテスト前には勉強会を開くなど、4人の仲の良さが垣間見えます。

最後に「主将として強豪と戦えるチームを作り、ダブルスベスト4、初出場を目指す団体はまず1勝を目指したい」と熱く意気込んでいました。

